

様式7

「学校」部門

## 河川基金助成事業

### 「水害からわが町を守る学習」 報告書

助成番号：2019 - 7210 - 008

静岡県立清水西高等学校

校長 綾部 信明

2019 年度

助成番号		助成事業名			学校名		
2019-7210-008		水害からわが町を守る学習			静岡県立清水西高等学校		
校長名		綾部 信明		担当教諭名		吉川 契子	
過去の助成実績		なし あり [助成番号： 助成事業名： ]					
キーワード		水害					
対象児童生徒		高校生（1年 250名） 中学生（ 年 名） 小学生（ 年 名）					
対象河川名		巴川	活動場所の指定状況		なし 子どもの水辺 水辺の楽校		
年間学習計画（シラバス）における本助成事業の位置づけ							
<p>テーマ : 水害</p> <p>ねらい : 地域防災の担い手として地域の過去の水害について理解を深め将来に備える。</p> <p>評価の観点 : 過去の河川水害から学び、情報を共有し、地域防災の担い手として将来に備える心構えができたか。</p> <p>活動時期 : 7から8月に、水害体験者の聞き取り調査を行い資料を収集する。9月から1月中に、聞き取り結果をクラス内で報告し、水害に関する資料学習を行う。水害から身を守るための行動について話し合う。</p>							
活動形態	総合的な学習の時間	各教科学習（理科・地学）	各教科学習（ ）	学校行事	その他（夏・冬休み課題）	合計	
上記の活動時間数	時間	5時間	時間	時間	2時間	7時間	
支援者等（複数記入可）							
保護者	外部小学校	外部中学校	外部高校	外部大学	市民団体	専門家等	
河川管理者	行政機関（博物館、資料館）等		関係団体（漁協、農協）等		企業	その他	
支援概要	<p>保護者、祖父母、親戚知人等、身近な過去の水害（七夕豪雨）経験者から災害体験の聞き取り調査に協力を得た。治水交流館「かわなび」、静岡市役所・静岡河川工事事務所から「巴川水害ハザードマップ」「巴川水害の変遷と対策」等の資料の提供を受け、また水害に関する新聞資料の提供を新聞社から受けた。授業内でそれらを用いて水害の原因を知り、被害の実態について理解を深めた。地域の公民館に一部生徒が協力いただき、水害跡の見学を行った。</p>						
活動成果	発表形態			成果作品			
	学級単位	学年単位	学校全体	授業配布印刷物			
	対外発表（ ）						
安全対策に関する課題							
<p>七夕豪雨災害の被災者からの聞き取りを行った後、浸水被害箇所を見学した生徒もあった。しかし、集中豪雨の無い平時には、全く浸水しておらず、十分な安全が保たれていた。従って、こういった場所の見学は、非浸水時には比較的安全である。市街地であるため、交通安全に十分な留意が必要である。</p>							
活動の成果と今後の課題・展開							
<p>集中豪雨による災害は地球温暖化による極端な気象現象の増加により、今後も発生頻度が高まることが懸念されており、そのことは教科書にも掲載されているが、学習開始時には自分と直接関わりの無いことである、と思っている生徒もあった。しかし、過去に地域に起きた大水害「七夕豪雨」の被害者・経験者に取材した生徒がおり、その情報を生徒同士で共有し、また、外部支援者の提供した様々な資料を学習することにより、水害を身近な問題として認識することができるようになった。近年国内でも今までに経験したことの無い大水害が発生している。折しも2019年度に、国内に台風による深刻な災害が発生し、そのニュースも、七夕豪雨の学習と並行して行ったため、深刻な気象災害に備える行動を、現実的に差し迫った課題として生徒たちが認識するに至ったことは大きな成果であると考えられる。年度末の最終まとめの時期に、新型コロナウイルスによる休業措置が行われたため時間が取れなかったことは残念であった。</p>							
活動内容と実施時期（主な活動を2つのみ記入）							
	部門	大分類	中分類	小分類	実施時期		
データベースに登録する活動分野	学校部門	教育活動	地学調査系	その他	7-12月		
			地理・現代社会系	水害の防止	9-2月		

## 概要版報告書

### 水害からわが町を守る学習

[キーワード] 水害の歴史 自然災害の防止 その他 (防災教育)

[対象生徒] 静岡県立清水西高等学校 1年生 6クラス

[対象河川名] 対象とする水系… 巴川 安倍川、対象とする河川名…大沢川 巴川 長尾川

[年間学習計画 (シラバス) における本事業の位置づけ] [活動内容]

4～6月：対象とする1年生で生徒は「地学基礎」を選択する。「地学基礎」の教科書で、地球温暖化により極端な気象現象が増加する可能性について学ぶ。気象現象も含めて、教科書に即した基本をまず学習させる。

7月：「地学基礎」の教科書では、地域の自然災害について調べることも課題とされている。本地域で過去、昭和49年7月7日に七夕豪雨と呼ばれる大きな水害が発生した。それから40年以上が経過したが、その当時の被災状況の記録が必ずしも十分残されているとは言い難いことを知らせる。

巴川洪水ハザードマップや、巴川の水害の歴史と治水対策について資料を使って学び生徒同士で対策も話し合う。(静岡市役所や河川工事事務所・治水交流館「かわなび」から「巴川水害ハザードマップ」「巴川水害の変遷と対策」等の資料提供を受けて、水害の原因と歴史時代の水が・治水について資料学習)本校卒業生で漫画家の(故人)さくらももこさんも、七夕豪雨を体験してその事実を漫画記録として残していることにも触れ興味を持たせる。

7～9月：夏休みを利用し、保護者、祖父母、親戚知人等、身近な経験者がいる生徒に聞き取り調査を行わせる。その結果は9月にクラス内で発表させる。災害から身を守るためどうしたら良いかを考えさせる。

9～2月：並行して、今年度発生した気象災害のニュースにも関心を持たせ、水害に関する新聞資料の提供を新聞社から受け、大水害発生の原因と、現実の被害状況について知る。時間の経過とともに避難生活や様々な経済活動に大きな影響が残っていることなどをニュースから知り、災害の被害の深刻さを実感する。災害から身を守る方法について話し合い、考察させる。地球温暖化により集中豪雨頻度が高まり、七夕豪雨と同様あるいはそれを上回る被害の水害が、近年発生していることを把握させる。災害は再び繰り返されると考え、平時の防災対策の重要性を認識させる。

将来的に七夕豪雨と同様の水害が発生する可能性もあることに気付かせ、この災害の記憶を持っている方から聞き取り調査を行った結果の情報記録を、共有する。災害の記憶を風化させず次代に残す大切さを認識させる。

[今後の課題・展開]

地域の方々から七夕豪雨災害の経験について、聞き取り調査への協力が得られたものの、災害から歳月が経過しているためその数は決して多くは無かった。しかしそれを補うたくさんの支援(静岡市役所や河川工事事務所・治水交流館・新聞社などからの資料提供)も得られた。地域の公民館に一部の生徒が協力いただき、水害跡の見学を行うなど予想外の支援もあった。

集中豪雨による災害は地球温暖化による極端な気象現象の増加により、今後も発生頻度が高まることが懸念されており、そのことは教科書にも掲載されている。しかし、学習開始時には自分と直接関わりが無いことである、と思っている生徒もあった。しかし、過去に地域に起きた大水害「七夕豪雨」の情報を生徒が共有し、様々な資料を学習し考えを発表しあうことにより、水害を身近な問題として認識できるようになった。深刻な気象災害に備える防災行動を、現実的に差し迫った課題として生徒たちが認識するに至ったことは大きな成果であると考え。年度末の最終まとめの時期に、新型コロナウイルスによる休校措置が行われたため十分な時間が取れなかったことは残念であった。